

8300 ハスラー リフトアップキット 取付説明書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に以下説明を必ずお読みいただくとともに常にお手元に保管していただき、正しい装着方法でご愛用いただけますようお願い申し上げます。(車両売却時にも引き継ぎください) なお、本製品の装着に関する事故や弊害につきましては、いかなる場合においても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

★取付作業前に必ずお読みください

- ・取付には専門の知識・技術のある方が作業を行ってください。
- ・作業を行う場合は必ずメーカー指定位置でジャッキアップし、リジトラック等を使用してください。
- ・走行直後は、タイヤ、ホイール、エンジン、ミッション、マフラー、ブレーキ等が高温になっていますので、十分冷ましてから作業してください。
- ・取り外す全ての取付部品の状態や位置・構成を確認し、取付状態を覚えておきます。
- ・各部ネジ部を外す前には、取付部からゴミや錆びなどを取り除いてください。
- ・各部のネジ部分には、緩み止め剤を使用して下さい。
- ・取付後、2週間以内に初期点検を行って下さい。各部ネジ部分に緩みや損傷が無いかを確認ください。
- ・初期点検後にも定期的点検が必要です。ボルト部にマーキングしておくとうわかりやすいです。
- ・純正タイヤ・ホイール以外を装着したことによる、はみ出し等は違法です。自己責任でお願い致します。
- ・この商品取付により車高が変わります。必ず構造変更にて「高さ」変更をお願い致します。
- ・取付後は、光軸調整、フロントアライメント調整を行ってください。

※純正ステアリングシャフト下取りの方への注意点 純正ステアリングシャフトの状態により、下取りが出来ない場合がございます。そのまま使用出来ない場合に限り、下取りを受け付けられない場合がございます事をご了承ください。

※上記内容をご理解して頂いたうえで作業を行ってください。作業を開始された時点で、上記内容に同意された事とさせていただきます。

また、予告なく製品改良の為に仕様変更する場合がございます。商品説明画像と異なる場合もございますので、ご了承ください。ご不明な点がございましたら、先にお問い合わせください。

株式会社パドック 担当 能戸
090-0825 北海道北見市無加川町409-44 TEL
0157-22-6753 FAX 0157-24-2719

構成部品



上記部品が全構成部品です

車体を持ち上げ、リジットラックを使用します。高さはやり易い位置で良いと思います。次にタイヤを外します。作業は後ろ側から行います。

1. まず、バッテリーを端子から外します。その後バッテリーの土台まで外します。
 2. 次にセンタープロペラシャフトにセンターマウント用のブロックを仮止めします。その時にタイコ部分のネジも外し、タイコの前側の吊り部分に延長用のゴムマウントをはめます。2. 次にコイル・ショック・ラテラルロッド・ブレーキホースのクリップ・トレーリングアーム前側ボルト・ABSクリップ・サイドワイヤー・を外します。3. ジャッキを下下に下げ、ホーシングをある程度下げたら、先にトレーリングアーム側から仮で取付します。
 4. ダウンブラケットの追加ステー(車面前方側)ですが、車体には穴が開いてませんので予め計測して、車体に大きめの穴(8mm位)で穴を開けてください。点付け溶接が可能なら穴は必要ありません。5. 次にラテラルロッドのダウンブラケットです。ネジは仮止めです。ボルトが入らない場合は穴を広げてください。
 6. ショック延長ブラケットですが、ホーシング側の穴を利用しますが大きさが違う為、8. 5mmで穴を開けてください。
 7. コイルスパーサーですが、真ん中のバンプストッパーを注意して外し、車体側には薄い付属のゴムスパーサーを挿めます。スパーサーの向きは真横から見て車体前方に下がる方向です。その際に小さく開いている穴がフレームの一直線上になる向きに合わせます。8. 最後にブレーキホースの延長ステー。サイドブレーキワイヤーを曲げ加工し、ABS線は干渉の無いように。増し締めはタイヤを装着しサスペンションを下げた状態(1G状態)で増し締めします。**※アーム側とラテラル側**は車体側のメインのボルトから糸を垂らし、**左右の位置を合わすのと垂直に下げる事をメインに位置出し**して下さい。
- ※取付穴やステーがフレームと干渉し、位置が正確に出ない場合は穴を広げたり、ステーを削って位置出しをします。
※サイドワイヤーについてですが、燃料タンクからのホースに干渉する場合はホースとワイヤーの位置を上下逆にします。
※HIDのレベライザー付き車は付属のステーでリンクを延長します。

※参考画像参照



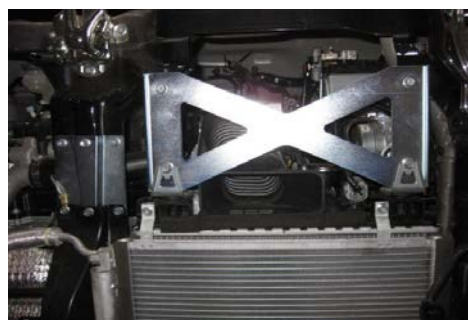
前側部分

1. ステアリングシャフトを外します。その際にフロアのカバー等も外します。コラム側は絶対に回転しないように注意。
2. 次にフロントバンパーやサイドアンダーカバーを外します。フロントコアサポートも外します。エアコンのパイプに注意。ABSブレーキシリンダーも外し、浮かせます。エンジンハーネスはボルトとクリップを外しフリーにさせます。
3. エンジン・ミッションマウントは左右共に外し、メンバーごと下に下げます。ヒーターホースは途中でカットしておきます。
4. 電動ファンの線、バキュームホース、バッテリーマイナス端子も外します。
5. ストラットも外し、ブレーキホース・ABS線にも注意します。ホーン位置はフェンダーの方にずらします。
6. エンジンハーネス、ステアリングシャフト、ABSステー、ブレーキホース・ヒーターホース。その他関係箇所を。これらの物が外れたら、**エンジン・ミッションを水平に下ろしていきます。干渉には十分注意して下さい。**

次に画像を参考に部品の箇所を確認してください。



ミッションマウントの六角タイプ側は、ワッシャーがミッション側に1枚入ります。



7. 画像を参考にエンジン・ミッションマウントから装着します。純正規定トルクで締めてください。
8. 次にフロントのサブメンバーですが、ノックピンが渋い場合がございますので、削りながら合わせて下さい。
9. ラジエーターサポートは図のように取付していきます。
10. ステアリングシャフトはカットプレートの位置でカットを行い、穴を開けた後に錆処理を行ってください。ステアリングカバーにコーキングを行い、予めゴムキャップに穴を開けておき、直進位置状態のまま装着します。純正のラック側に装着されているゴムは、真ん中の部分のみ残るようにカットし、ラックに装着します。
11. マフラーについては、予め延長ゴムで位置を下げてますので、排気漏れの無いようにフロントパイプを装着します。その際にフロントメンバー側のステーを上側に曲げ加工します。
12. エンジンコード類はタイラップ等で干渉のないように留めてください。ブレーキホースは延長ホースとステーにて装着。ABSコードはとまっている箇所をずらして装着します。ヒーターホースは途中でカットし付属のパイプとバンドで固定します。(CVT車のみ)
13. エンジンルームのインタークーラー上のソレノイドバルブは、付属のステーで装着します。
14. エアコンパイプは優しく曲げて直線上にし、ボディに干渉のないように沿わせませす。

※フロントサブメンバーの固定ですが、前側のブロック部分はフレームと水平になるように角度を合わせます。増し締め時には左右でホイールベースを測定し合わせます。左右のズレが極力無くなるようにセットして下さい。もちろんリアのアーム側のブラケットがズレていればそちらも修正します。

フロントストラット部分

一番肝心のフロントストラット部分です。

※新タイプに変更の為、アダプターの形状が違いますので、詳しくはご連絡下さい。

1. 純正ストラットを分解します。その際にコイルは十分に縮めて交換してください。
 2. まず、当社のアダプターを一度分解しストラット側に装着します。その際にシャフトが空転してしまうので、インパクトレンチで強めに締めてください。**その時にコイルでテンションが掛かっていると締めきれません。**
 3. ストラットにアダプターの半分の付属のナットで装着後にアダプターの溝を合わせて3本ネジでしっかり締めます。
 4. 次にこのアダプター(実用新案提出中)は偏芯可能タイプにしており、キャスター・キャンバーを調整可能です。現車に装着後、360°回転しますので左右のアライメントが一番合う位置で装着して下さい。推奨はショック側の凸が左右それぞれに前方斜め外側(フロントバンパー両端部分)に向く位置です。
- ※ストラットを回転させ、装着する場所によっては純正のボディ側にストラットが干渉しますので、フレーム中央部分(画像参照)を予め凹ませ加工して下さい。

5. アッパー部分の増し締め時には、タイヤを装着し1G状態にしてから ボディ側のゴムのハマリ具合を確認して増し締めしてください その他、画像で確認願います。



※最後にサイドスリップ等でトーインを合わせます。各部増し締め、点検等を十分に行った上で試走して頂き、問題が無いか確認してください。

①②は、ショックが当たる為、ハンマーなどで凹ませてください。

③は、タイヤが干渉する為に、ハンマーで叩いてください。

2016年4月7日追加説明

マニュアル車専用説明書

基本的には上記の説明と変わりありませんが、変更の部分のみ記載します。

1. シフトリンケージ本体のステーを2本共にミッション側からはずします。ワイヤーも2本ともミッション側で外します。センサースイッチのカプラーからクリップも外します。
2. 次にエンジンハーネスのミッション側でとめている部分(2か所)を外します。シフトリンケージのマウントには、付属の厚みのあるワッシャーを2か所それぞれ間に挟めます。
3. シフトリンケージを留める際の注意点ですが、エンジンハーネスが純正は下側を通っているのので上側に持ってきます。
※画像参照
4. 次にエンジンハーネスをワイヤーと順番を入れ替え、ハーネスが引っ張られないようにします。装着後はタイラップ等でエンジンハーネスをその他と干渉しないようにしてください。
5. クラッチワイヤーのステーは、キット装着後に上下反対に回転させ留めます。
6. 燃料パイプの配管は干渉しないように曲げてください。
7. 最後に問題無くシフト動作が行えるかの確認をお願いします。

※その他画像を参照してください。



ミッションマウントの装着例



室内側のワイヤー部分。ゴム部分は多少前後します。



ノーマルシフトリンケージ配置例



シフトリンケージ変更後配置例

Sエネチャージ車専用説明書

基本的には上記の説明と変わりありませんが、変更の部分のみ記載します。

1. エンジンマウント部分(アルミ製)にアース線が装着されているので、マウント側のみ線ははずします。
2. 次にリフトアップ専用のエンジンマウントを交換します。
3. エンジン後方のオルタネーターのステーに予めネジが切れている箇所がありますので、そこにそのまま装着します。
※画像参照
4. エアコンパイプの配管(運転席側)を曲げ加工し、突っ張らないようにします。
5. フロントメンバー部分にエンジンハーネスがボルトで留まっているので外し、リフトアップ後にタイラップ等で固定します。



エアコンパイプの曲げ加工例



ハーネス部分。タイラップ等で固定します。

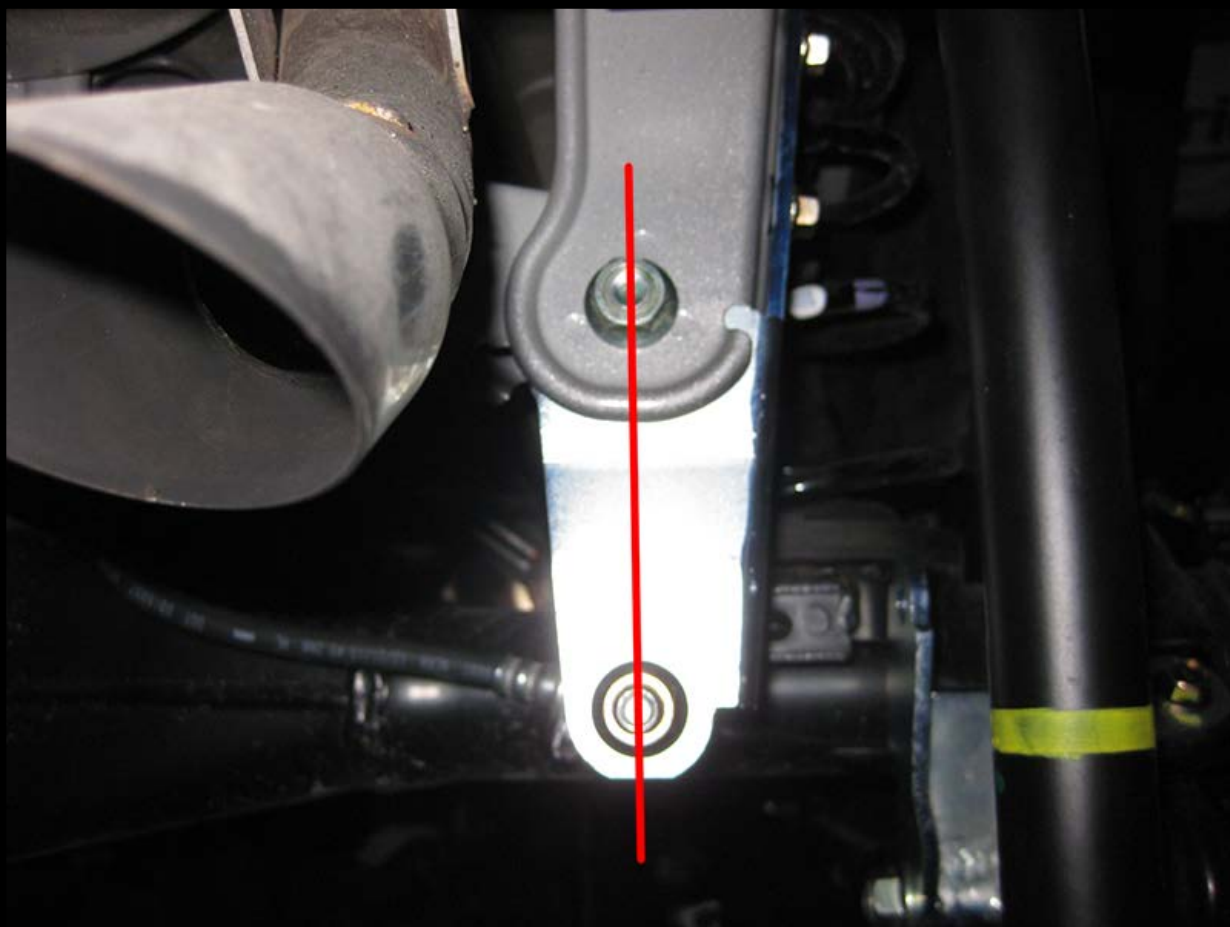


アース線。装着位置



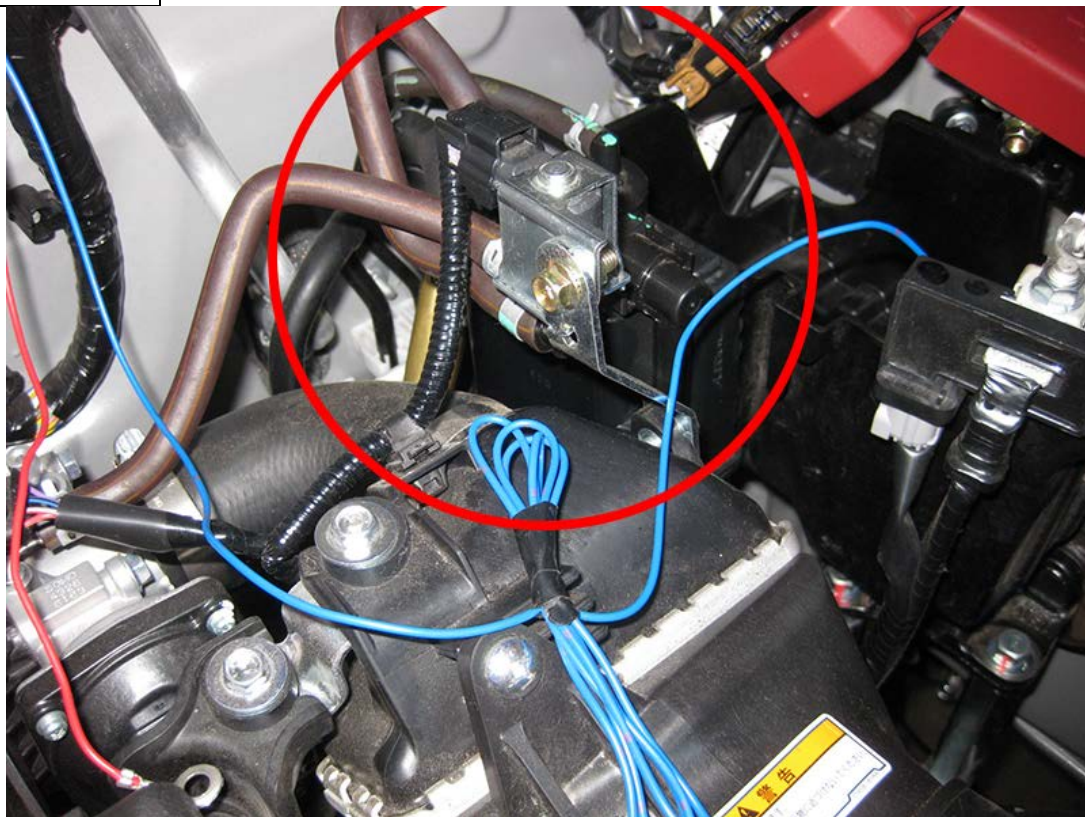
完成レイアウト

ラテラルの位置合わせ



ボディー側とブラケット側のボルトのセンターをきちんと合っている状態で組み付けしていない場合は、タイヤがどちらかに、出っ張りますので、ボルトのセンターが合う様に確認してから締め付けを行ってください。

ターボ車ステ어의取付写真



リアソーサーの写真



ソーサーの向きに、注意してください。

各フェンダー加工



フロントフェンダーカット例



フロントフェンダーカット例



リアフェンダー前側カット例



リアフェンダー前側カット例

ステアリングシャフトカバー加工写真

